

令和2年度かしわらっ子はぐくみテスト  
における結果の概要について

柏原市教育委員会

## 1. 目的

- 児童が自身の学習状況について知ることにより、学習に対しての目標を持ち、その向上にむけて意欲を高める。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 概要

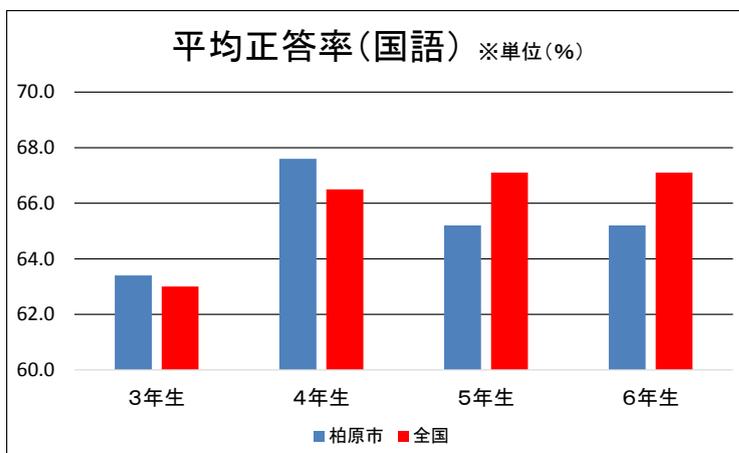
- (1)実施日 令和2年12月11日(木)～12日(金)のいずれか1日
- (2)対象 柏原市立小学校に通う第3学年から第6学年の児童
- (3)内容 ①教科に関する調査(国語、算数)  
②生活習慣や学習に関する質問紙調査(i-Check)

# 令和2年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

## 今年度の結果(国語)

平均正答率		
	柏原市	全国
3年生	63.4	> 63.0
4年生	67.6	> 66.5
5年生	65.2	< 67.1
6年生	65.2	< 67.1

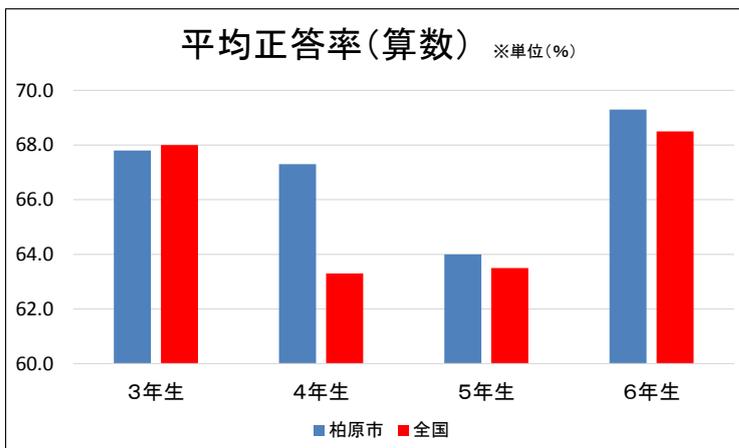
※単位(%)



## 今年度の結果(算数)

平均正答率		
	柏原市	全国
3年生	67.8	< 68.0
4年生	67.3	> 63.3
5年生	64.0	> 63.5
6年生	69.3	> 68.5

※単位(%)

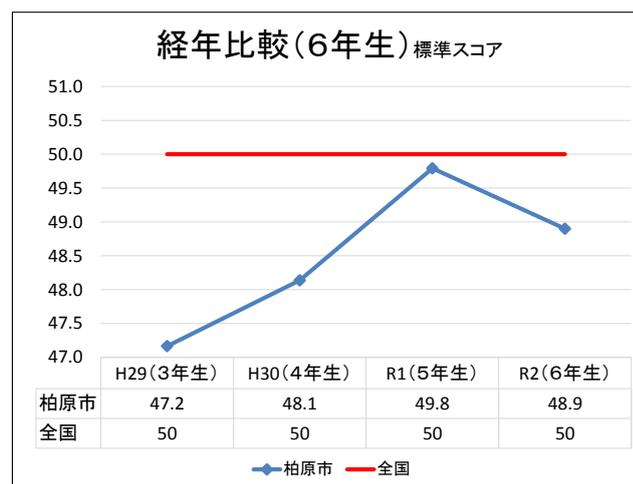
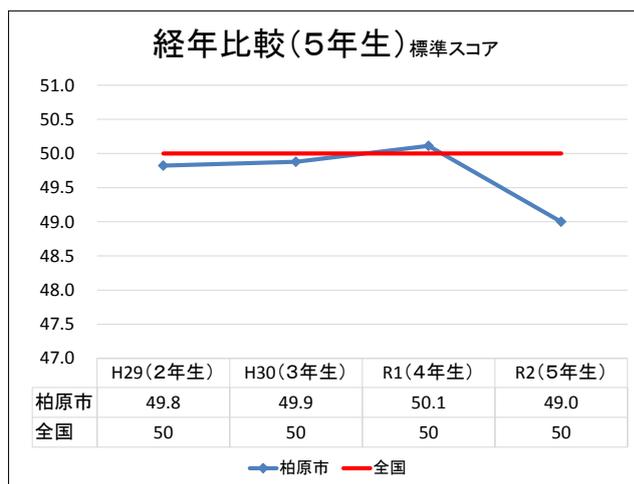
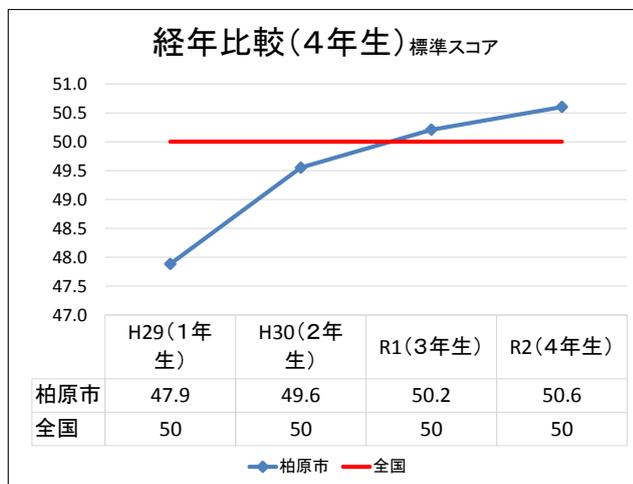
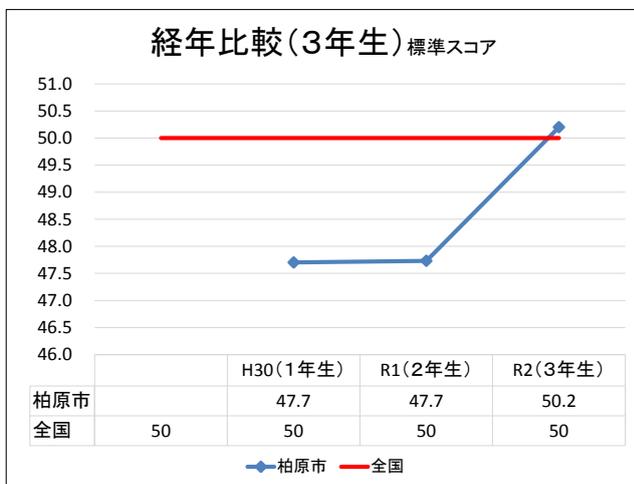


国語は、5年生、6年生において全国平均を下回ったが、3年生、4年生では全国平均を上回る結果となった。算数は、3年生において全国平均を下回ったが、4年生から6年生において、全国平均を上回る結果となった。

# 令和2年度かしわらっ子はくみテスト結果

## 同一集団の成長(国語)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

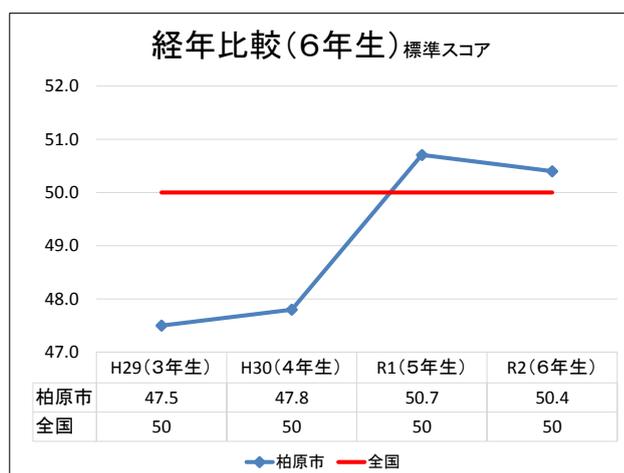
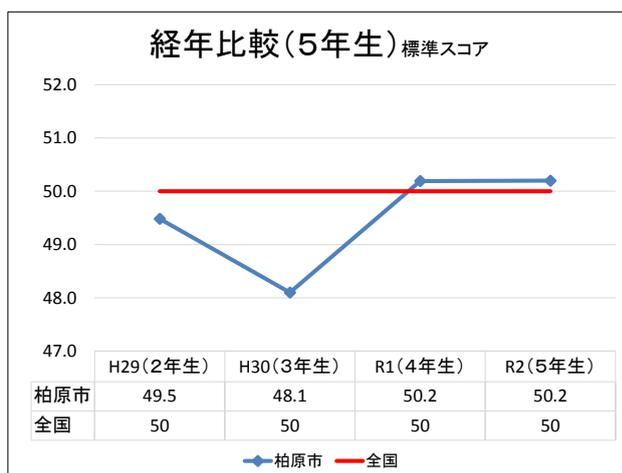
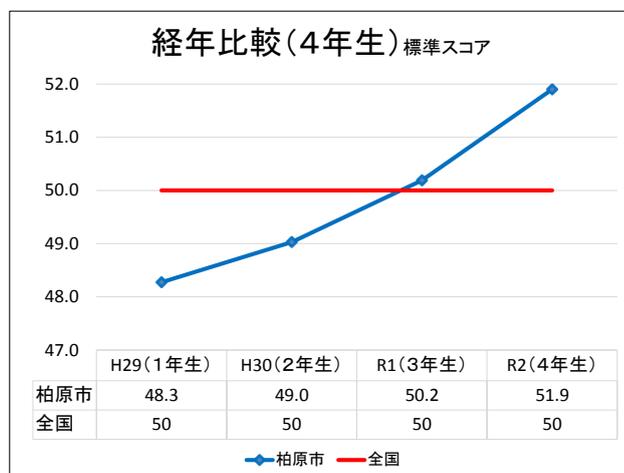
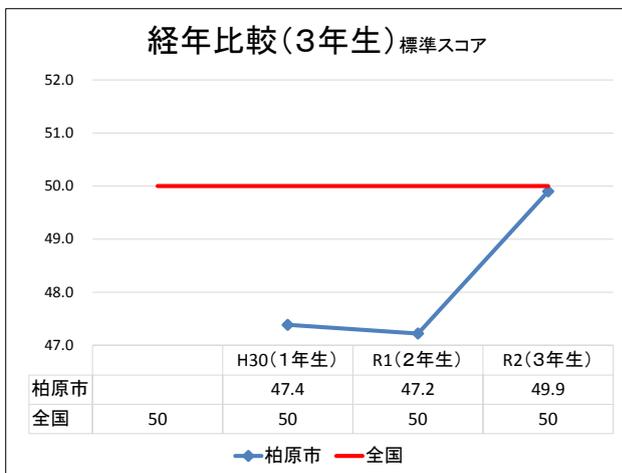


3年生、4年生が継続して上昇傾向である。5年生、6年生は昨年度まで上昇傾向だったが、今年度は下降し全国に約1ポイント及ばなかった。

# 令和2年度かしわらっ子はぐくみテスト結果

## 同一集団の成長(算数)

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。



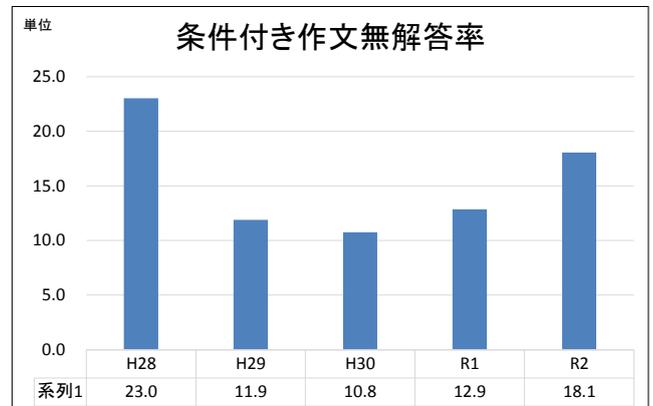
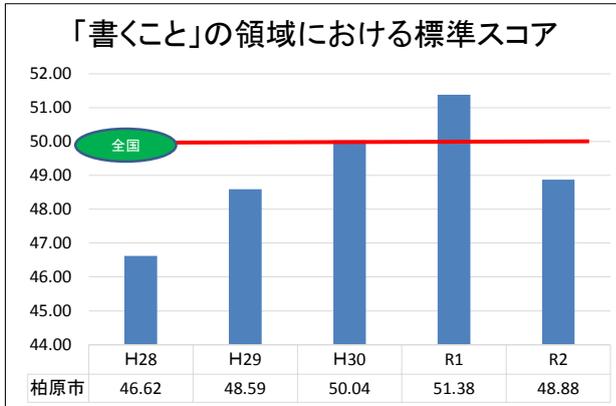
3年生から5年生は、継続して上昇傾向である。6年生は昨年度に比べやや下降したものの、全国を上回ることはできている。

# 「書く力の育成」を検証

## 国語「書くこと」の領域における標準スコア(全国比)の推移

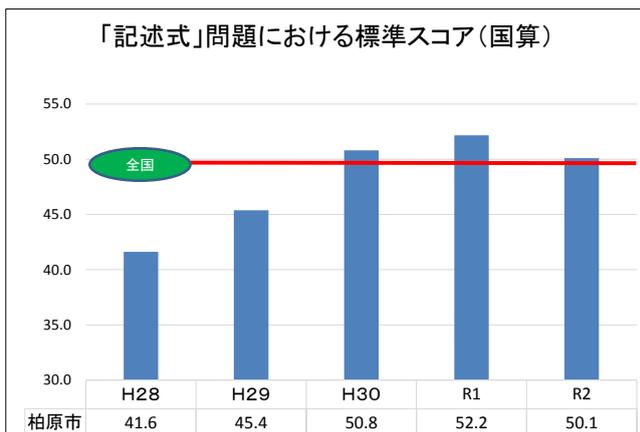
## 国語における条件付き作文問題無解答率の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



## 「記述式」問題における標準スコア(全国比)の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの柏原市の正答率を換算した値です。



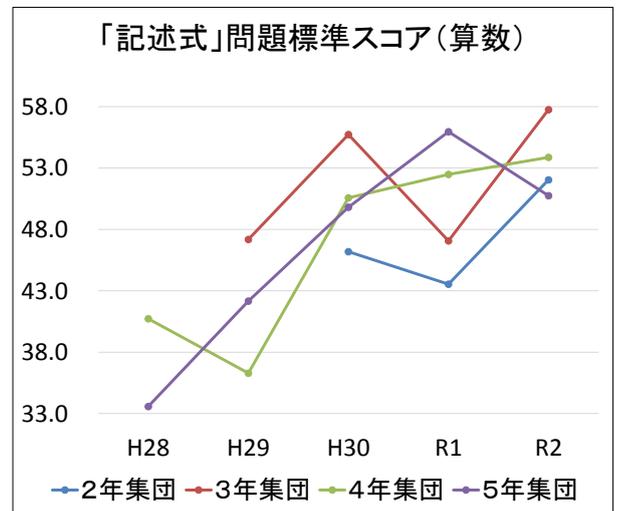
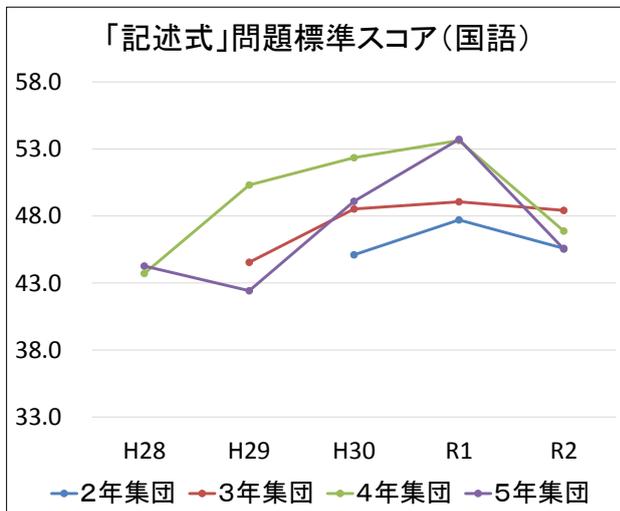
市で重点的に取り組んでいる「書く力の育成」に関するデータである。  
 国語科における「書くこと」領域については、昨年度までは上昇傾向だったが、今年度は下降し全国平均も下回った。条件付き作文の無解答率は昨年度に引き続き増加している。

教科別の「記述式」問題の同一集団の推移を見てみると、算数は昨年度に比べ6年生以外は上昇傾向であるものの、国語は全学年昨年度から下降している。

全体的に国語の記述式問題の正答に課題があるととらえる。

## 「記述式」問題における同一集団の推移

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

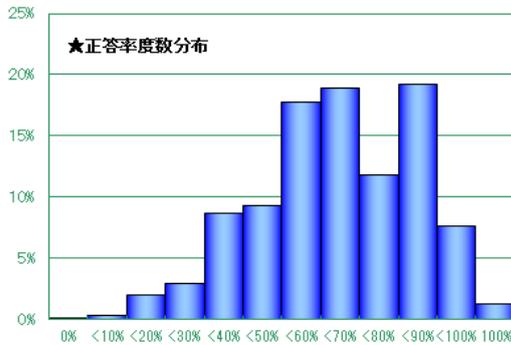


# 国語(3年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	63.4	63.0	
	基礎	69.3	68.9	
	活用	52.0	51.8	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	73.1	72.3	
	情報の扱いに関する事項	51.8	50.4	
	話すこと・聞くこと	75.0	72.7	
	書くこと	39.8	46.6	
評価の観点	読むこと	55.7	53.2	
	知識・技能	68.2	67.2	
	思考・判断・表現	55.6	56.2	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	48.8	53.6	
	選択	63.5	61.2	
	短答	76.8	75.6	
	記述	47.5	52.1	



○全国の平均正答率を上回った。  
▼領域別にみると、「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を6.8%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 国語(3年)問題で課題の見られた設問

正答・・・(略)

著作権の関係で表示できません。

「文章を書く」問題である。①指定された長さで文章を書く力 ②内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書く力 ③内容の中心を明確にし、自分の考えを書く力が求められる。日頃から、200字程度の長さで自分の考えとその理由をまとめる活動を繰り返し行うことにより、中心を捉えた文章を書くことができるようになる。学習の記録、読書感想文、日記など数多くの場面で継続的に書く経験を積ませることが大切である。

- ①「指定された長さで書く」正答率は、本市が42.3%、全国が51.6%で、9.3%全国を下回った。
- ②「内容の中心を明確にし、事実を伝える」正答率は、本市が39.7%、全国が49.3%で、9.6%全国を下回った。
- ③「内容の中心を明確にし、自分の考えを書く」正答率は、本市が43.6%、全国が52.8%で、9.2%全国を下回った。

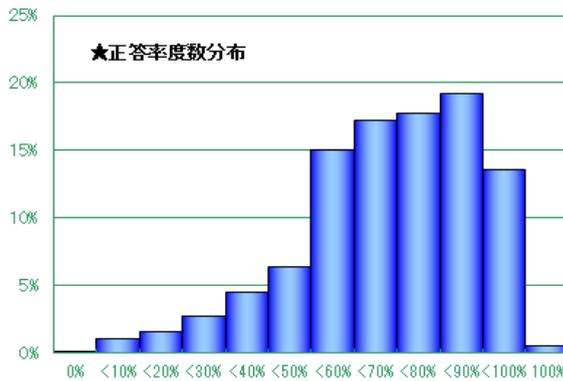
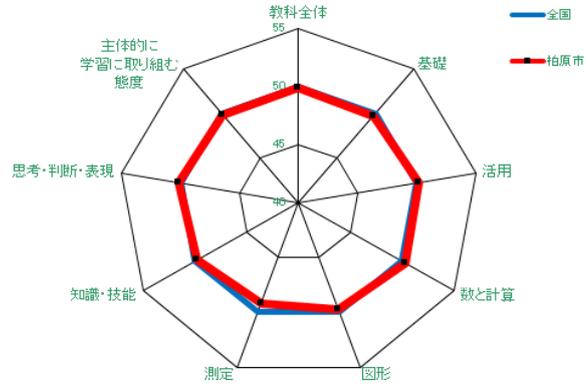
# 算数(3年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	67.8	68.0
	基礎	75.4	76.1
	活用	55.1	54.6
学習指導要領の領域等	数と計算	66.7	66.2
	図形	69.4	70.2
	測定	70.0	71.9
評価の観点	知識・技能	73.5	73.9
	思考・判断・表現	50.7	50.4
	主体的に学習に取り組む態度	57.2	57.7
問題形式	選択式	69.0	69.7
	短答式	71.9	71.7
	記述式	30.6	29.4

＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞



○全体の平均正答率をやや下回ったものの、概ね全国の平均正答率に近い結果だった。

▼領域別にみると、「測定」の領域が一番開きが大きく、全国を1.9%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 算数(3年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

正答 5

乗法のきまり(分配法則)を理解しているかが問われている問題である。乗法のきまりは、教師が一方向的に指導するのではなく、2年生の段階で九九表から児童が発見できるようにし、そのきまりが成り立つかを確認させる活動が大切である。また、式のみで考えさせるのではなく、本問のように図と関連させながらきまりについて説明させる活動も効果的である。

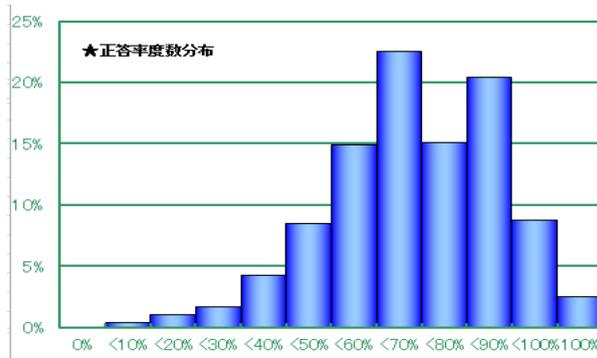
正答率は、本市が67.2%、全国が75.5%で、8.3%全国を下回った。

# 国語(4年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	67.6	66.5	
	基礎	72.0	69.8	
	活用	57.7	59.2	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	80.0	76.5	
	情報の扱いに関する事項	52.5	52.5	
	我が国の言語文化に関する事項	87.7	88.8	
	話すこと・聞くこと	60.9	62.5	
	書くこと	56.1	56.4	
評価の観点	読むこと	55.2	53.7	
	知識・技能	73.2	70.9	
	思考・判断・表現	57.3	57.4	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	47.5	50.4	
	選択式	67.7	65.9	
	短答式	83.3	81.3	
	記述式	49.1	50.7	



○全国の平均正答率を上回った。  
▼問題形式別にみると、「記述式」問題が全国を1.6%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 国語(4年)問題で課題の見られた設問

正  
答  
例  
る  
た  
そ  
う  
じ  
を  
屋  
休  
み  
中  
に  
終  
わ  
ら  
せ

著作権の関係で表示できません。

話し合いの内容を聞き取り、解答する問題である。話し合いをする際には、話題や方向を適確に捉え、自分の考えを持ちながら参加するように指導することが大切である。具体的には、司会の進め方や記録の仕方などを確認した上で、実際に記録をとりながら話し合いを行うなどの学習活動が考えられる。その際、話し合いの途中で、それぞれの発言の仕方について留意すべき点を確認したり、めざしている到達点に向けて取り上げる話題をどのように絞り込めばよいかについて考えたりするなど、話し合いの仕方を見直しながら進めるように指導することも効果的である。

正答率は、本市が43.6%、全国が52.8%で、9.2%全国を下回った。

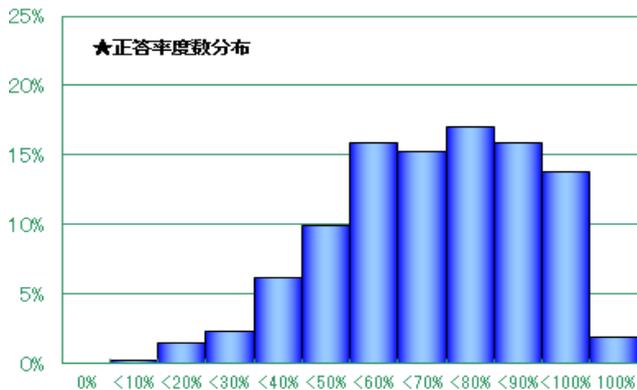
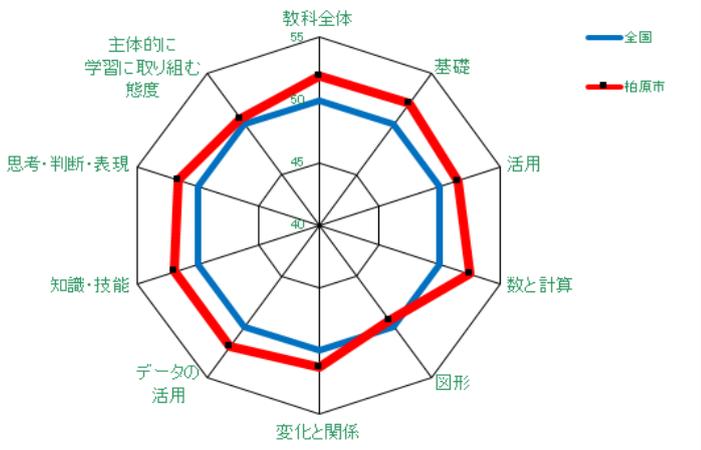
# 算数(4年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	67.3	63.3
	基礎	73.4	69.4
	活用	55.6	51.7
学習指導要領の領域等	数と計算	73.0	67.8
	図形	60.5	62.0
	変化と関係	72.7	68.6
	データの活用	46.4	40.2
評価の観点	知識・技能	72.8	69.0
	思考・判断・表現	55.1	50.9
	主体的に学習に取り組む態度	46.5	44.9
問題形式	選択式	70.7	65.9
	短答式	67.9	65.3
	記述式	32.0	27.7

＜標準スコアによるカテゴリ間の比較＞



○全体的に全国の平均正答率を大きく上回った。  
 ▼領域別にみると、「図形」の領域が全国を1.5%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 算数(4年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問は、平行四辺形の作図ができるかどうか問われている問題である。図形の指導においては、定義や性質、作図の学習だけではなく、学習した図形を切りとらせたり、敷き詰めさせたりするなど、操作的活動を取り入れることが大切である。算数的活動を通して感覚を養うことで、「作図を通して図形の性質を学ぶ」と「図形の性質を学ぶことを通して作図ができるようになる」という両輪の意識を持った指導が重要である。

正答率は、本市が46.9%、全国が63.4%で、16.5%全国を下回った。

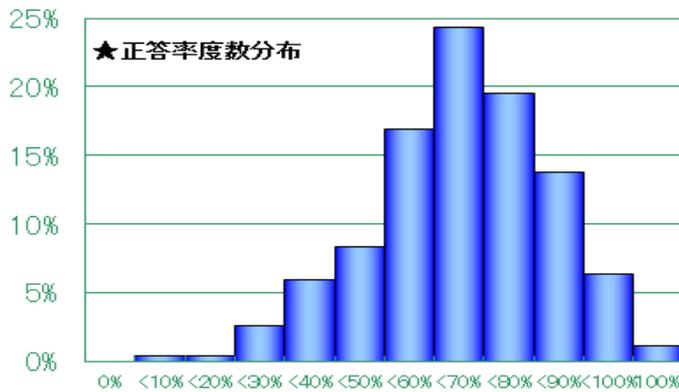
正答・・・(作図問題)

# 国語(5年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	65.2	67.1	
	基礎	71.1	72.1	
	活用	51.8	55.9	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や扱いに関する事項	66.8	68.7	
	情報の扱いに関する事項	34.3	37.0	
	話すこと・聞くこと	70.5	70.8	
	書くこと	62.8	66.4	
評価の観点	読むこと	62.5	63.2	
	知識・技能	62.1	64.2	
	思考・判断・表現	64.2	66.0	
問題形式	主体的に学習に取り組む態度	58.1	62.7	
	選択式	69.4	68.7	
	短答式	62.8	67.0	
	記述式	60.0	64.0	



○「選択式」問題は全国を上回った。  
 ▼全体的に全国を下回る結果だった。  
 ▼領域別にみると、「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を3.6%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っているかを問う問題である。文を書く際には、漢字自体の意味を考えながら、正しく使えるように指導することが大切である。そのためには文を読む際にも、漢字や言葉を大事にしながら文が表す意味について考えさせたい。また、他教科における書く活動や宿題等の日常の中で繰り返し書かせることにより、漢字を書くことに対する抵抗感を軽減させることも重要である。

正答率は、本市が42.5%、全国が58.8%で、16.3%全国を下回った。

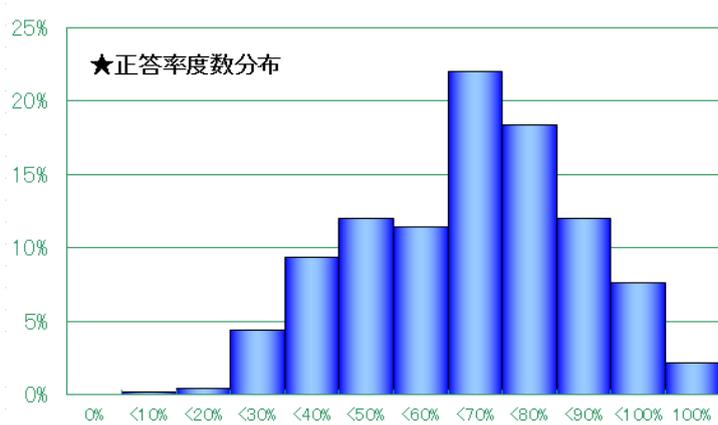
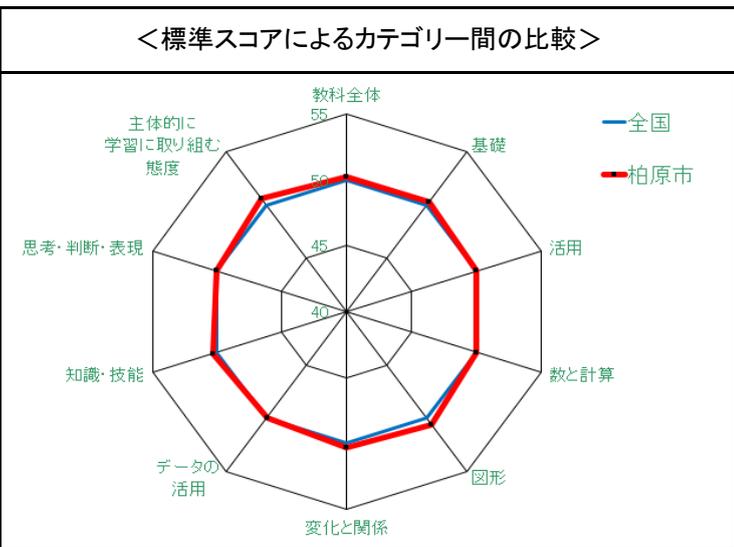
正答… 覚 → 冷

# 算数(5年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率	
		柏原市	全国
	全体	64.0	63.5
	基礎	69.6	69.0
	活用	49.2	49.1
学習指導要領の領域等	数と計算	68.4	68.3
	図形	66.6	65.0
	変化と関係	70.9	69.8
	データの活用	22.3	22.5
評価の観点	知識・技能	71.2	70.5
	思考・判断・表現	51.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	52.1	50.3
問題形式	選択式	66.6	66.8
	短答式	64.7	63.6
	記述式	36.2	33.6



○全国の平均正答率を大きく上回った。  
 ▼領域別にみると、「データの活用」の領域のみ全国を0.2%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 算数(5年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問では最大公約数を適用して問題を解決しているかが問われている。算数では「問題解決型」の学習の過程で、算数に必要な数学的なものの見方・考え方を養っていく。最大公約数の学習に限ったことではないが、求め方を暗記的に学ぶ(インプット)だけでなく、最大公約数の考え方を活用する場面を設定し、学んだことを自分の言葉で表現(アウトプット)することが重要である。授業づくりにおいて意識しておきたい。

正答率は、本市が46.4%、全国が54.5%で、8.1%全国を下回った。

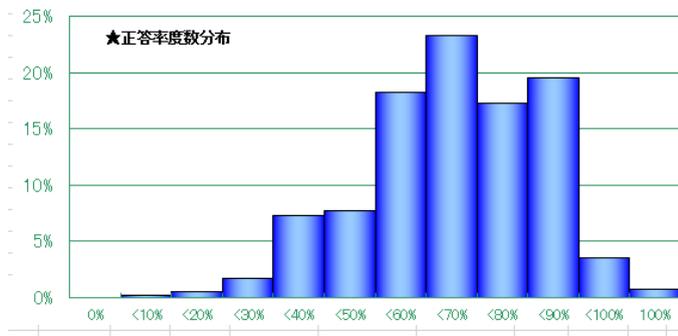
正答 ... 6cm

# 国語(6年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		＜標準スコアによるカテゴリー間の比較＞
		柏原市	全国	
	全体	65.2	67.1	
	基礎	72.0	74.4	
	活用	54.3	55.5	
学習指導要領の領域等	言葉の特徴や使い方に…	64.0	67.1	
	情報の扱い方に…	46.8	45.5	
	話すこと・聞くこと	66.9	68.5	
	書くこと	60.4	64.7	
	読むこと	71.6	69.4	
評価の観点	知識・技能	61.6	64.0	
	思考・判断・表現	66.2	67.3	
	主体的に学習に取り組む態度	45.6	50.5	
問題形式	選択式	70.3	70.0	
	短答式	69.8	72.9	
	記述式	48.9	53.7	



○領域別にみると「読むこと」の領域が全国を上回っている。  
 ▼全体的に全国を下回る結果だった。  
 ▼領域別にみると、「書くこと」の領域が一番開きが大きく、全国を4.3%下回った。

※ ○印: 成果 ▼: 課題

## 国語(6年)問題で課題の見られた設問

正答・・・ ①往復

①の「おうふう」が一番正答率に開きのあった問題である。漢字の定着については、練習や小テストを繰り返し行っているが、定着するまでの学習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ漢字を繰り返しかえし書くよりも、熟語や短文といった活用場面を考えながら練習することが望ましい。また、様々な文章を書く活動でも、わからない漢字を国語辞典で調べさせ、意味や類義語等に触れる習慣を身につけさせることも大切である。

正答率は、本市が46.5%、全国が63.4%で、16.9%全国を下回った。

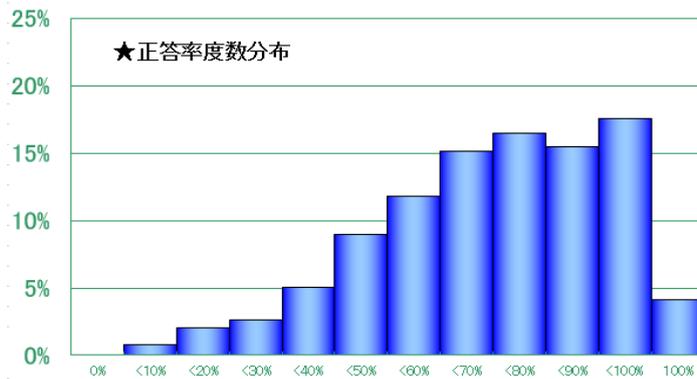
著作権の関係で表示できません。

# 算数(6年)

## 問題別調査結果

※標準スコアは、全国値の正答率を50としたときの換算値です。

分類	区分	正答率		標準スコアによるカテゴリー間の比較
		柏原市	全国	
全体		69.3	68.5	
基礎		74.9	72.8	
活用		55.0	57.4	
学習指導要領の領域等	数と計算	70.3	70.9	
	図形	70.0	66.9	
	変化と関係	55.6	50.2	
評価の観点	知識・技能	73.1	71.9	
	思考・判断・表現	57.8	58.1	
	主体的に学習に取り組む態度	54.0	55.2	
問題形式	選択式	65.6	66.0	
	短答式	76.1	74.2	
	記述式	40.4	39.8	



- 全国の平均正答率を上回った。
- ▼「活用」問題が全国を2.4%下回った。

※ ○印:成果 ▼:課題

## 算数(6年)問題で課題の見られた設問

著作権の関係で表示できません。

本問は1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができるかが問われている。問題場面で扱う数が分数になると数量関係の理解が困難になる。数直線を用いて問題場面に出てくる数を整理することで、立式だけでなく乗法における大小関係についても理解することができる。そのためには、具体物からテープ図、テープ図から数直線図と各学年段階において、発展的・系統的、そして継続的に図を扱い、図をもとに説明することができる指導を続けることが重要である。

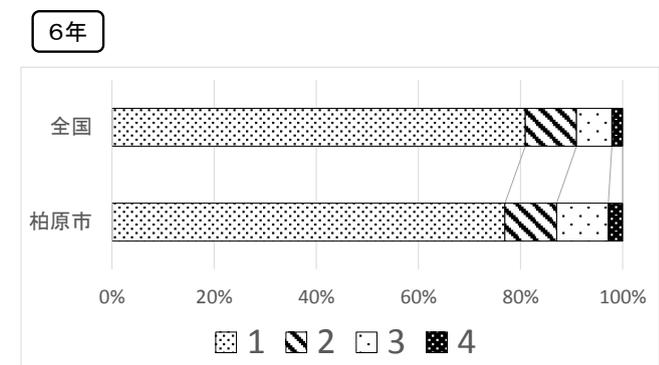
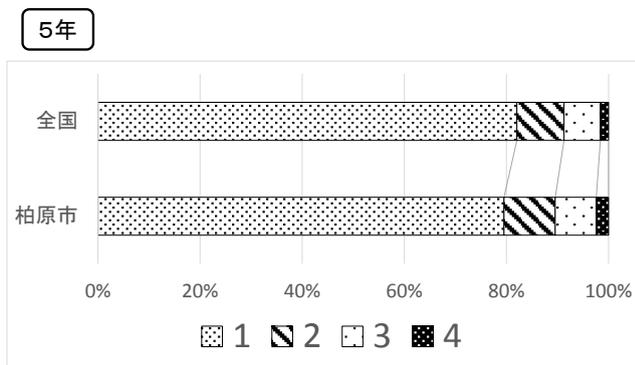
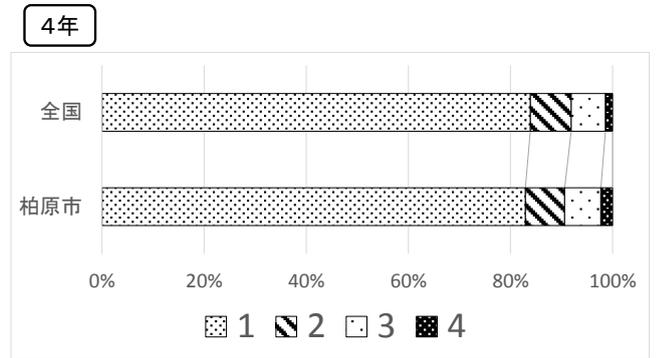
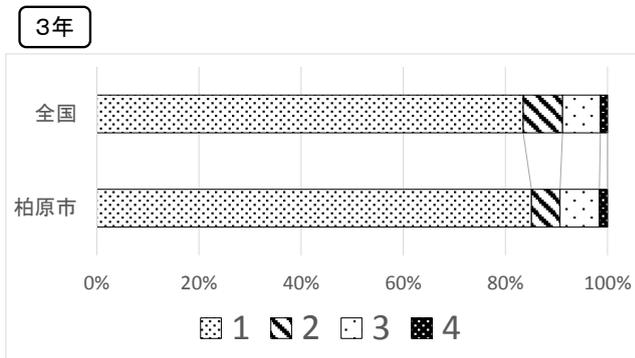
正答率は、本市が58.1%、全国が69.4%で、11.3%全国を下回った。

正答・・・ 3000「イ」 3/8「エ」  
□「ア」

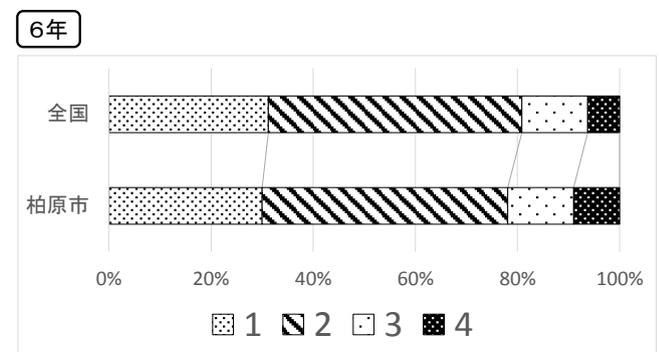
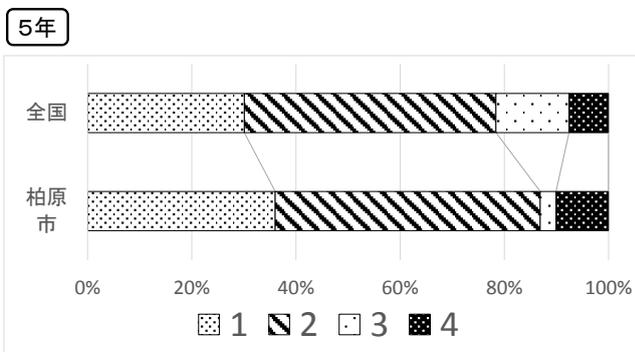
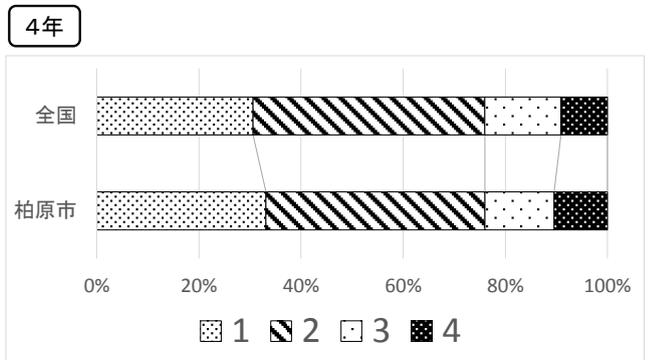
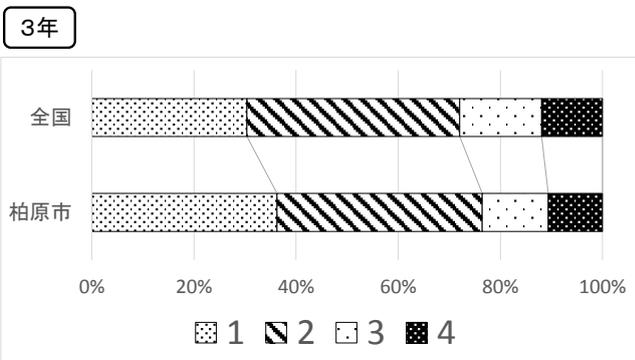
アンケート結果(i-Checkより)  
【生活習慣】

全国学力・学習状況調査より、平均正答率が高い傾向が見られる質問事項  
(学力との相関関係のある質問)について

○朝食を毎日食べていますか。(1…毎日食べる 2…だいたい食べる 3…あまり食べない 4…食べない)



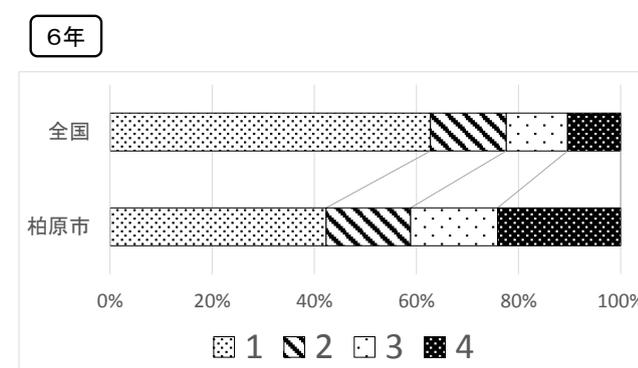
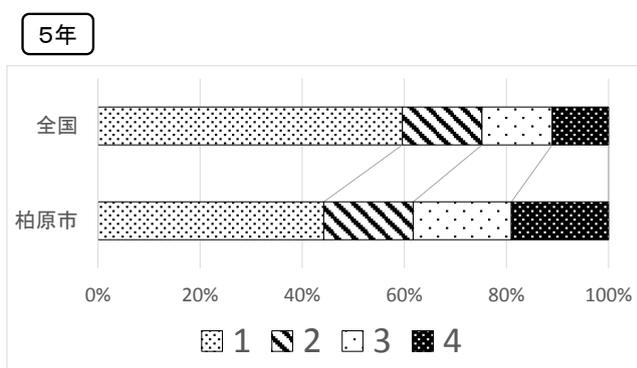
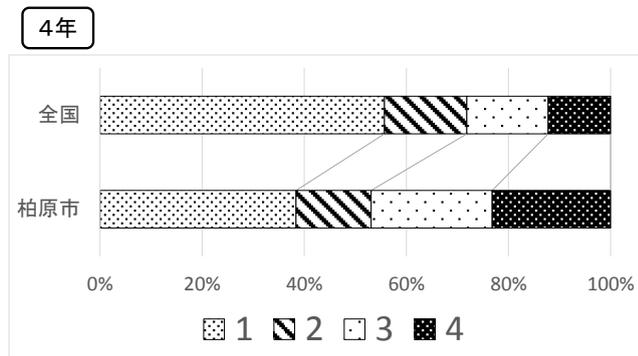
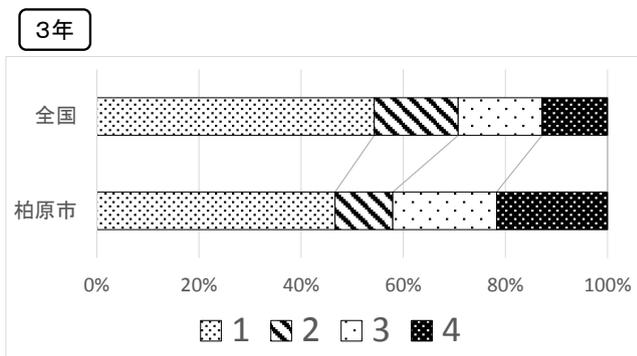
○毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。(1…いつもそうしている 2…だいたい 3…あまり 4…ばらばら)



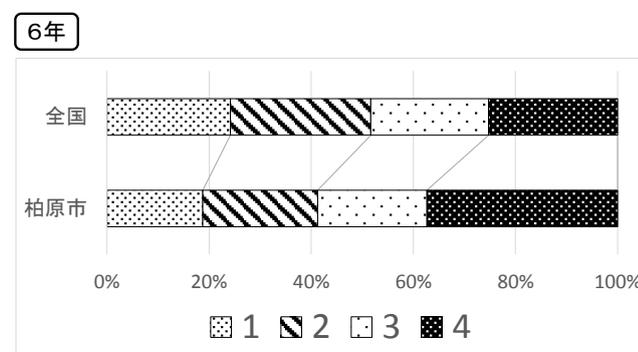
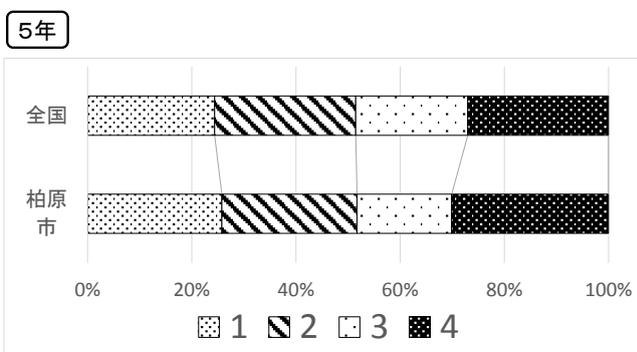
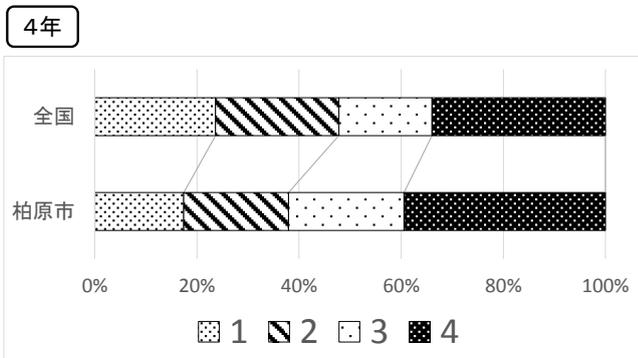
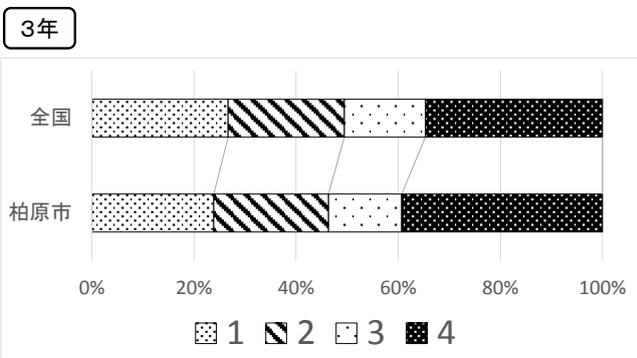
○「朝食を毎日食べている」について、3年生が全国を上回っているが、4年生以上は全国を下回り、学年が上がるにつれて肯定率も下がっている。  
○「同じくらいの時刻に寝ている」について3～4年生は全国を上回っているが、6年生は全国を下回っている。

アンケート結果(i-Checkより) 全国学力・学習状況調査より、平均正答率が高い傾向が見られる質問事項【学習習慣】(学力との相関関係のある質問)について

○家で週に何日くらい勉強しますか。(1…ほぼ毎日 2…4～5日 3…2～3日 4…ほとんどしない)



○一日の勉強時間はこれくらいと、めやすを決めていますか。(1…決めている 2…だいたい 3…あまり 4…決めていない)



○「週あたりの勉強日数」について、全体的に全国に比べると少ない日数で、特に6年生の「ほとんどしない」の割合が高い。  
 ○「一日の勉強時間のめやすを決めているか」について、5年生が全国を上回っているが、3、4、6年生は全国を下回っている。

## ○教育委員会としての今後の取組み

- ・ICT機器の導入による情報活用能力の向上と並行して、「書く力」や「書くための読む力」といった言語能力の向上をねらった具体的な施策の提案及び実施をしていく
- ・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく
- ・効果的な研修を精選して行い、教員が子どもと向き合う時間を確保する。
- ・優れた実践をしている教員による研修や公開授業をとおして、経験の浅い教員にも高い指導技術を習得できるようにする
- ・幼小中一貫教育をより一層推進し、系統性・連続性のある学びの研究を進める
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みの好事例を収集し、学校や保護者に啓発していく
- ・情報モラルについて学べる研修を実施し、保護者に啓発していく

## ○学校における今後の取組み

- ・教員全員が指導力向上と授業改善が進むよう、校内研修や授業研究会を充実させる
- ・教科横断的に「書く」機会を多く設け、組織的に「書く活動」の充実を図る
- ・授業においてICTを積極的に活用した授業づくりをすすめる
- ・道徳教育や人権教育を中心に、自他ともに大切にし、思いやりや優しさが育まれる心の教育を充実させる
- ・各校区で幼小中の教員や子どもたちの交流を充実させ、11年間の連続した視点での指導を確立させる
- ・家庭学習習慣の定着に向けた取組みを充実させる

## ○家庭にお願いすること

学習能力の向上につなげる

- ① 基本的な生活習慣の定着
  - ・決まった時間に寝起きしてリズムを意図的につくる
  - ・体温のリズムやホルモンのバランスが崩れないよう、おおむね8時間以上の睡眠を取るよう促す
  - ・朝ごはんを食べるよう促し、脳を生き生きとさせ、やる気や集中力を高め、学校での学習能力の向上につなげる
- ② 家庭学習習慣の定着
  - ・発達段階に応じて家庭学習時間のめやす(学年×10分)を決める  
※中学第1学年生徒は、7年生とする
  - ・毎日の宿題ができているかを確認する
- ③ スマートフォンやゲーム等、メディアについてのルール作り
  - ・テレビ、ゲーム、携帯電話、スマートフォン、パソコン等の使用時間や使い方について家庭内でよく話し合い、ルールを決める
  - ・携帯電話やスマートフォンの使用状況について確認する